

ばん馬を変えた万能の品種 ベルジアン種

品種の特長

- ・スピードもパワーもある
- ・早熟かつ晩成
- ・馬場、重量を問わない
万能タイプ

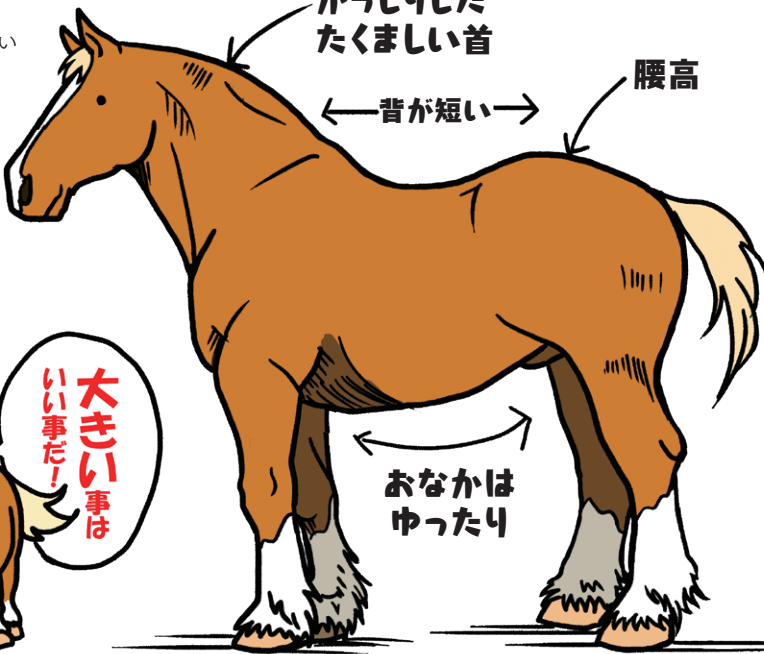
一番の特徴は
がっしりした
たくましい首

腰高

←背が短い→

おなかは
ゆったり

↑
脚が長い
↓



ベルジアン種の代表的な種雄馬 Vol.1



ジアンデュマレイ

1971年生 栗毛 米国産
血統登録馬数:1030頭 種雄馬登録数:88頭

1974年に十勝農協が北米から輸入した種雄馬です。1970年代は新しい馬種を模索していた時期で、同品種の名種雄馬マルゼンストロングホースも、ほぼ同時期に輸入されています。新馬種のため最初は牝馬が集まりませんでした。初年度からイレネー記念とナナカド賞を制したリュウタカラを出し、一躍人気種雄馬になりました。

産駒は仕上がりが早い上に成長力もあり、古馬戦線でも活躍。6年連続で総合リーディングという輝かしい成績を残しています。世代別リーディングも複数年獲得しており、万能的種雄馬として多くの産駒を残しました。

尾花栗毛が多く、脚と顔に白斑のある馬が多い

今に伝わるジアンデュマレイの血



発展している父系は、**ニューフロンテヤ**～**カネサスピード**～**カネサブラック**、**センショウリ**～**フジエーカン**～**インフィニティー**の二つの系統です。カネサブラック、インフィニティーはともに2010年代にばんえい記念を勝った記憶に新しい名馬です。残念ながら両馬とも亡くなってしまいましたが、カネサブラック産駒からはすでに柏林賞を勝ったジェイワンが後継となり、初年度産駒からヤングチャンピオンシップ3着のジェイヒーローを出しました。今後はキングフェスタも種雄馬として期待がかかります。インフィニティーも6世代産駒を残しており、今後種雄馬になるような逸材がいます。また、2022年度の3歳世代では、**スピードフジ**産駒のクリスタルコルドとツガルノヒロイモノが大活躍しています。スピードフジの父**クリフジ**は希代の名馬オレノココロの母の父でもあり、今後の発展が楽しみな父系です。

そして、ジアンデュマレイは母の父としても大種雄馬**ダイヤテンリュウ**を送りました。(12～13ページ参照)ダイヤテンリュウ系を通じて、その血は広がっていくと思います。ジアンデュマレイは鉄鯉との相性が良かったようで、ばんえい記念馬のニューフロンテヤの母の父は鉄鯉、先のページで紹介したようにダイヤテンリュウも鉄鯉の孫になります。

ベルジアン種の代表的な種雄馬 Vol.2



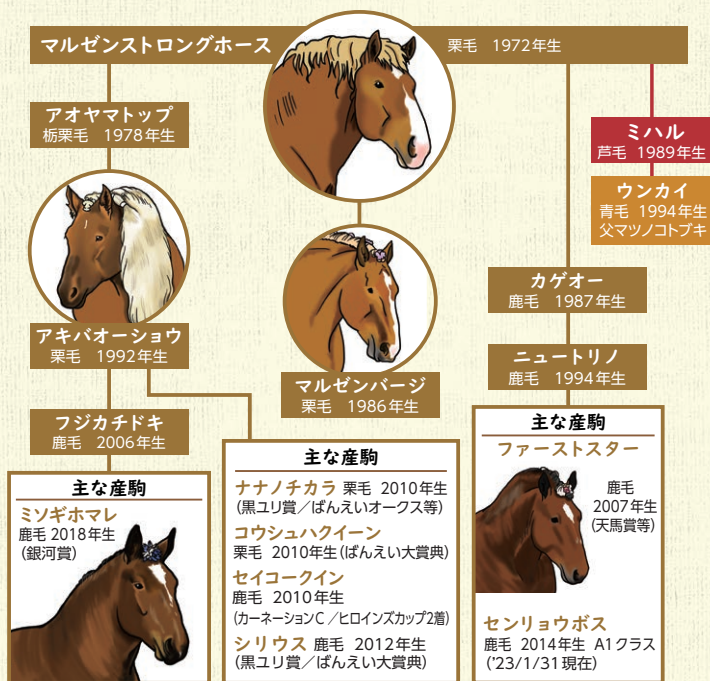
マルゼンストロングホース

1972年生 栗毛 米国産
血統登録馬数:486頭 種雄馬登録数:52頭

ジアンデユマレイと並ぶベルジアン種の名種雄馬です。サラブレッドの名馬マルゼンスキーのオーナー、橋本善吉氏が輸入したことで有名です。大成功した2頭の種雄馬は同じ牧場の出身で、ショータイプに改良される前の古風なベルジアン種で強い近親交配を持っていました。

代表産駒はばんえい記念2勝のマルゼンバージ。純血種で初のばんえい記念馬で、その後も純血種でばんえい記念を制した馬は出ていません。

今に伝わるマルゼンストロングホースの血



数年前までその父系からコンスタントに活躍馬を送っていましたが、現在、A1クラス以上の現役馬がいる父系はアオヤマトップ～アキバオーショウと、カゲオー～ニュートリノの二つ。アキバオーショウの父系は牝馬の活躍馬が多く、マルゼンストロングホースの父系は先細りになりつつあります。しかし、母の父として大種雄馬ウンカイを送りました。ウンカイ産駒の人気種雄馬、フジダイピクトリーとコウシュハクイーンはマルゼンストロングホースの強い近親交配を持っており、今後もその血は広まっていくことでしょう。